

②港北・家事サービスワーカーズ「いずみ」の活動について

橋本ゆづ子

一 はじめに

家事サービスワーカーズ「いずみ」は、地域で心と心の触れ合いを大切にし、いずみのごとくわき出るように助け合いの輪を広げたいと名前をつけました。

「遠くの親戚より近くの他人」ということわざがあります。ひと昔まえなら、隣近所で助け合って暮らしていたのに、マンションの隣の人の顔も知らない・・なんていうこともありうるのが現在の社会状況です。

私たちは、相互扶助の精神に基づき、高齢化社会を迎えても、生きがいを持ち、安心して生活出来る地域をつくることや、地域の人々が気軽に頼み合える関係づくりをめざしています。

それでは、これから「いずみ」の活動についてご紹介したいと思います。

二 福祉クラブ生活協同組合の設立とそれを支える四つのワーカーズ・コレクティブ

家事サービスワーカーズ「いずみ」は、福祉クラブ生活協同組合の事業を担うたすけあいのワーカーズ・コレクティブとして、一九八七年十二月一日に設立いたしました。

福祉クラブ生活協同組合は、福祉専門の生活協同組合として全国に先駆けて神奈川県で設立された生活協同組合で、現在会員三千二百人といい組織になっていますが、その時は設立準備のさなかでした。

私たちは、二十一世紀に向けて経験したことのない都市型高齢社会を迎えます。国や地方自治体による年齢別・所得別・障害別のシステムは個々の事情に対応した柔軟な利用が難しく、かといって利益重視型の民間シルバー産業は収入などの問題があっても簡単に利用できるものではありません。こうしたはざまに、互い

一 はじめに

二 福祉クラブ生活協同組合の設立とそれを支える四つのワーカーズ・コレクティブ

三 家事サービスワーカーズ「いずみ」の事業

四 今後の課題

五 おわりに

に助け合える場がないことが福祉クラブ生活協同組合設立の理由でした。

そして、実は福祉クラブ生活協同組合設立の基本構想の時点から、事業の担い手として、助け合いのネットワークを広げていく意味でワーカーズ・コレクティブ方式による食料品の宅配サービスと家事サービス事業の必要性が提起されていたのです。

このワーカーズ・コレクティブという働き方は、労働に社会性や文化性を取り込んだ新・ワーク・スタイルです。サラリーマンのような雇用労働ではなく、利潤追求を目的としない点が自営業者とも異なり、みんなで出資し、みんなで働き、みんなで出た利益を分け合うという自主管理、自主運営の新しい働き方です。常にメンバーの話し合いで経営方針を決め、競争や管理を拒否しています。仕事はフルタイム一人がやることを何人かで分担することにより、それぞれに合わせたローテーションで、日常生活で

得た技術や能力を生かしていくのです。

現在、福祉クラブ生活協同組合を支える四つのワーカーズ・コレクティブは、世話焼きワーカーズ「ひまわり」「こすもす」と家事サービスワーカーズ「いずみ」「絆」として実現されています。

世話焼きワーカーズ・コレクティブは会員数百五十人、ワーカーが何人かの福祉生活協同組合の組合員を受け持って、小分けした品物を宅配する活動を行っています。そして、家事サービスワーカーズ・コレクティブは会員数九十三人、福祉クラブ生活協同組合の会員が困ったときに家事などのお手伝いを行っています。

三——家事サービスワーカーズ「いずみ」の事業

福祉クラブ生活協同組合の事業を支える両輪の一つ、家事サービスワーカーズ「いずみ」の事業内容は、次の通りです。

- 運 営 出資金、会費等で運営
- 出資金 五千元
- 会員数 ワーカーズ 五十三人
サービスの対象者 月平均三十人
- 利用資格 福祉クラブ生活協同組合の港北区内

の組合員二千二百人

平成二年から、対象者を福祉クラブ生活協同組合組合員を優先したためニーズが少なくなりましたが、それでもヘルパー不足のため依頼されるケアに全部応えられない状態であり、今後の課題の一つになっています。

サービスの内容

- ・老人、障害者の身の回りの世話、通院、外出の介助、話相手
 - ・病弱な方、産前産後の主婦、母・父子家庭の家事、育児の代行
 - ・掃除、洗濯、買い物、食事づくり、子守、等々
- この一〜二年、老人家庭の依頼が増えました。一人暮らしの話し相手、二人暮らしの掃除や布団干し、食事づくり、また銀行や郵便局での振り込みなどを頼まれることもあります。

利用方法と料金

- 受付 月曜日〜金曜日に電話で受け付け
- 料金 一時間六百元（＋交通費）でチケット制

ワーカーズの中から選出された理事が利用者宅を訪問し、コーディネートします。

あらかじめワーカーズより登録されているカードにより、働ける日時、仕事の内容などを参考にワーカーズを派遣します。派遣先は、通勤時間三十分ぐらいの範囲にしています。

高齢者は特に、ワーカーズの入れ替わりを嫌う傾向があるため、対象者一人に対して同じワーカーズを継続して派遣することが多くなります。

ワーカーズ同士の横のつながりは、月に一度の清算時や、二カ月毎に開かれる定例会で、ワーカーズ同士の話し合い、相談、利用者宅へのサービスの見直しなどを行います。

ワーカーズの収入

一時間六百元。内六分の一を運営費として会に収めます。

ワーカーはそれを現金にかえることも、自身のサービスを受ける時に備えてためておくこともできます。

決算状況

表一の通り

その他の関連事業

一昨年より地域で健康相談や情報交換など気軽に出来る場をつくりたいと思い、福祉クラブの組合員宅、地区センターなどを借りて「デイホームいずみ」を開いています。講師は保健所の栄養士、鍼灸士、地域で訪問歯科診療をしている医師の方々にお願ひしています。

福祉クラブ生活協同組合の日吉そうざい加工室でつくったお弁当をいただきますが、毎回なごやかなひとときを過ごしています。これからもお年寄りを中心にいつもどこかで「デイホー

表-1 「いずみ」の決算状況

(単位：万円)

年 度	87年	88年	89年	90年	91年
事 業 高	12	266	414	251	260
ワーカースの報酬	10	221	345	188	190

ム」を開いているように
 広がっていきたくと思いま
 す。

四——今後の課題

家事サービスワーカー
 ズ「いずみ」は、高齢化
 や核家族化が進む中で、
 これまで三年あまり活動
 を続けてきました。こう
 した中で抱えている課題
 もいくつかあります。
 その一つは、担い手の
 問題です。現在ワーカー

の参加者層は、主婦が中心で、後継者（若い人
 や男性）の参加を期待していますが、現状は厳
 しく、担い手の確保が難しいのです。宅配チラ
 シをはじめ、福祉クラブ生活協同組合ニューズ

でも募集しているが、思うように増えていませ
 ん。

欧米では、男女とも働き盛りの人や若い人が
 こうした活動で生計を立てています。日本でも
 こうした層を巻き込めるかどうかが課題です。

今後とも、新しい働き方への理解を深めてもら
 うために幅広く呼びかけをして、ケアー者を増
 やしていきたいと思っています。

次に活動資金の問題があると思います。福祉
 的な活動の場合、経済的基盤をつくることが大
 変難しいのです。高いサービス料をいただくこ
 とは、組合員に犠牲を強いることになるからで
 す。また、法的にこうした事業が認知されてい
 ないため、公的助成も受けにくいのです。

現在、資金の確保として、出資金・会費・利
 用料（チケットの六分の一）・バザーの収益等
 を運営費にしておりますが不足しています。助け
 合いワーカーズ・コレクティブは利潤を目的と
 はしない活動とはいえ、採算ベースに無理があ

ると理念倒れになってしまいます。今後、ワー
 カーの確保の問題とも絡んでいますが、収入を
 得る多様な方法を考えながら、徐々に事業を拡
 大できたらと思っています。

五——おわりに

これまで、私たちは福祉クラブ生活協同組合
 の事業を支える家事サービスワーカーズ・コレ
 クティブの活動を展開してきました。福祉に対
 する思いは、会員の中にさまざまなものがあり
 ます。

しかし、福祉はいずれは自分に返ってくるも
 のですから、困ったときはお互い様ということ
 でこれからも仲間を増やし、「人のつながり」
 を大切にして、さらに輪を大きくしながら続け
 たいと思っています。

△港北・家事サービスワーカーズ「いずみ」理
 事長▽